

ドイツ森の幼稚園における自然活動

—Tübingen “Eichhörnchen” 幼稚園を事例にして—

○後藤みな^A, 大高泉^B

GOTO Mina, OHTAKA Izumi

筑波大学大学院人間総合科学研究科^A, 筑波大学人間系^B

【キーワード】ドイツ森の幼稚園, 自然活動

1. 研究背景と目的

周知のように、ドイツを震撼させた PISA ショックは、今日進行しつつある各州の教育改革の起点であったといえよう。就学前段階も改革の射程に収められ、2004 年に各州文部大臣会議 (KMK) と青少年大臣会議 (JMK) が「児童昼間施設における幼児教育のための各州共通の枠組み

(Gemeinsamer Rahmen der Länder für die frühe Bildung in Kindertageseinrichtungen)」を公表している。そのような中であって、目下のところ、各州では「教育要領」の作成が進められている。

例えば、バーデン・ヴュルテンベルク州 (以下、BW 州) の「BW の幼稚園に向けた陶冶および訓育のための支援計画 (Orientierungsplan für Bildung und Erziehung für die baden-württembergischen Kindergärten) (以下、「支援計画」)」には、陶冶および発達領域が 6 つ設定されている。すなわち、身体、感覚、言語、思考、感情・共感、センス・価値・宗教、に関する領域である。こうした諸領域には、それぞれの文脈で、自然との係りに関する目標が多々記述されている。

ところで、BW 州に多く展開している、毎日野外で教育活動を行う「森の幼稚園」は、上掲の「支援計画」に基づいた活動プログラムを作成している。本研究では、「支援計画」に掲げられた自然との係りに関する目標を踏まえた上で、その達成に向けた森の幼稚園における具体的な自然活動の一端を解明する。

2. 研究方法

「支援計画」にみられる、自然との係りに関する諸目標の達成に向けた具体的な活動を、BW 州にある Tübingen “Eichhörnchen” 幼稚園の活動プログラムと教育者の活動記録を基にして描出する。

3. 研究結果

「支援計画」には、例えば次のような自然との係りに関する諸目標が明記されている。(1) 日常や自然の現象に驚き、そして言語的に強化する、(2) 自分の、数学的および自然科学的考えを実験し追

究する、(3) 石、ヨーグルトカップ、葉と栗、その他の木の実にいった様々なものを集める、等々である。

Tübingen “Eichhörnchen” 幼稚園では、「音楽と芸術」ならびに「探究者 (自然科学) としての子ども」というテーマを設け、活動を構成している。そこでの教育では、既成のおもちゃを一切用いず、もっぱら森の中で見つけられる天然の材料からおもちゃを創造させる、といったスタイルが採られる。おもちゃを自ら創り出すために、天然の材料を見つけて出して作業する中で、子どもたちは日々自然活動をしていくこととなる。また、子どもたちが体験した内容を互いに話す機会が確保されている。こうした内容には、(1) との関連が見受けられる。Tübingen “Eichhörnchen” 幼稚園ではまた、定期的なプロジェクト活動を行っている。なかでも、自然科学者および演劇教育学者 (Theaterpädagogin) が共同で企画する「SCOUT プロジェクト」は、自然科学的現象に対する子どもたちの疑問に対して、自然科学者が「遊戯的に答える」、といった内容で構成されている。こうした内容には、(2) との関連が看取できる。また、「木箱プロジェクト」では、木の実・枝の一部・つぼみ等々を集めたり、分類したり、それを確認したりする、といった内容で構成されており、ここには (3) との関連が見受けられる。

4. 今後の課題

本研究では、Tübingen “Eichhörnchen” 幼稚園の活動プログラムや教育者の活動記録から分析を行ったが、自然との係りに関する活動全体を網羅しているわけではない。今後は、対象範囲を広げ、さらに、具体的な活動の描出を課題とする。

主要参考文献

Baden-Württemberg Ministerium für Kultus, Jugend und Sport: *Orientierungsplan für Bildung und Erziehung in baden-württembergischen Kindergärten und weiteren Kindertageseinrichtungen*, 2011.